

危険が残るため、1カ月後カテーテル塞栓術を施行した。Tracker 18 カテーテルを動脈瘤内に誘導し、IDCを用いて瘤内塞栓を行った。術翌日の血管写では動脈瘤の前面がわずかに造影された。現在 follow up 中である。

#### 〇-15) 急激に成長した巨大脳動脈瘤の塞栓術

藤井 康伸・江面 正幸 (広南病院血管内  
脳神経外科)  
高橋 明  
吉本 高志 (東北大学医学部  
脳神経外科)  
松崎 隆幸 (函館赤十字病院  
脳神経外科)

症例は、47歳、女性。平成2年3月に頭痛を主訴として、近医受診。MRI 施行し、異常を認めなかった。平成5年4月、頭痛増強し、血管撮影施行。巨大脳動脈瘤が throbbing していたため、平成5年5月、当科紹介となる。入院時には、神経学的に異常を認めなかった。脳血管撮影にて、右内頸動脈の terminal に neck をもち、右シルビウス裂内へ進入する長径約3cmのドームをもつ脳動脈瘤を認めた。MRI では、右シルビウス裂内に長径約3cmの脳動脈瘤を認めた。中心部に signal void をもち、T2WI では、その周囲に壁在血栓と思われる層状の強い低信号域を認めた。平成4年6月に、GDCによる、瘤内塞栓術を施行。良好な塞栓が得られ、3カ月後・6カ月後のフォローアップの結果は良好であった。以上、血管壁内出血により急激に成長したと考えられる巨大脳動脈瘤について、文献的考察とともに報告する。

#### 〇-16) 前頭葉嚢胞性脳腫瘍の2例

本橋 蔵・須貝 和幸 (仙台市立病院  
脳神経外科)  
椎名 巖造・下瀬川康子  
小沼 武英  
亀山 元信 (東北大学救急医学)

今回我々は術前診断が困難であった嚢胞性腫瘍の2例(meningioma, oligodendroglioma)を経験したので鑑別上の問題点を加え報告する。症例1は29才の男性。頭痛と複視を主訴に来院した。頭部 CT, MRI では左前頭葉に直径4cmの腫瘍及びその周囲に分葉化した嚢胞性病変を認めた。腫瘍と嚢胞周囲は増強効果を示した。栄養血管は前篩骨動脈のみで、外頸動脈からの栄養は見られなかった。手術所見からは olfactory groove meningioma であり、病理組織診断は meningotheomatous meningioma であった。症例2は61才の男性、

頭痛と左半身の脱力を主訴に来院した。頭部 CT, MRI では右前頭葉底部に不均一に増強される腫瘍と脳梁を介し一部左前頭葉内に達する嚢胞性病変を認めた。栄養血管は右内頸動脈及び両側外頸動脈の分枝であった。術中迅速診断は glioblastoma であったが、最終診断は oligodendroglioma grade III であった。嚢胞を伴う meningioma, oligodendroglioma はまれであるが鑑別診断として念頭に置く必要があると思われた。

#### 〇-17) 再発髄膜腫2症例の検討

—病理スコアリングを用いて—

鈴木 晋介・上之原広司 (国立仙台病院)  
小川 欣一・桜井 芳明 (脳神経外科)  
鈴木 博義 (同 臨床検査科)

髄膜腫の再発は、腫瘍の局所残存及び増殖活性度によると思われるが不明な点も多い。今回、最近経験した再発髄膜腫2症例に対し臨床病理学的検討を加えた。病理スコアリングは、これまでに再発例と非再発例を比較して多い傾向であった hypervascularity, cellularity, mitosis, necrosis, brain invasion, pleomorphism, macronucleoli, papillary pattern, high grade, sheeting の10所見をそれぞれ1ポイントとし加算したものである(合計0~10点)。非再発例のスコアリングは平均1.8点(Std. Dev.=1.9, Std. E.=0.2, n=113)であった。

症例1は47才男性。convexity meningioma で Sympton grade II の術後4.5年で再発し、スコアリングは初回4→再発時8点。症例2は55才男性。sphenoid ridge meningioma で、Sympton grade II の術後5カ月で再発し、スコアリングは初回3→再発時6点であった。これらを PCNA, MIB1 等の関連を含めて報告する。

#### 〇-18) 無症候性髄膜腫57例の検討

米岡有一郎・田村 哲郎 (新潟大学)  
佐藤 光弥・田中 隆一 (脳神経外科)

近年、CT, MRI の普及にとともに、無症候性脳腫瘍をみる機会が多くなった。今回は、1986年~1993年の8年間に当科で経験した無症候性髄膜腫57例を検討した。

無症候性髄膜腫は57例(全脳腫瘍の10.7%)であった。57例の内訳は、男10例、女47例であり、年齢は21~82歳(平均63.0歳)、60歳以上は29例(50.9%)、70歳以上は17例(29.8%)となっている。局在(手術例)は、convexity 17(6)、falx 10(2)、CP-angle 10(2)、